

質問 町民と環境を守るための散骨条例を

答弁 調査研究を進めます

ひらやま ひろみ
平山 光生 議員

最近では少子高齢化や核家族化が進み、墓じまいをしてご遺骨を自然に還す自然葬の需要が拡大し、本町でも自然葬を希望する声が聞こえています。

しかし、需要の拡大とともに、遺骨には「六価クロム」という環境有害物質が検出される場合があること

国のがいドラインには、環境有害物質の検査と無害化処理について明記されていません。

本町には一次産業に欠かせない広大な大地と子どもたちに繋ぐべき豊かな自然があります。

法整備がされていない今だからこそ、環境の維持と町民が危険にさらされることがあります。

質問



現在、墓地埋葬に関する規制権限は地方自治法上、自治事務とされています。散骨など、様々な埋葬方法が、一定程度実施されている一方で、無制限であつてはならず、自然と環境に配慮し、安全・安心な地域を守るという視点も踏まえて、今後散骨の規制に関する調査研究を進めていきます。

このないように、散骨条例を制定する必要があると考えますが、町長の考え方をお聞かせください。

町長答弁

町長答弁

今は見識がないので、調査研究はしますが、はつきりとしたことは言えない現状です。

再質問

調査研究を行い、町民需

要が増加してから制定を検討されるのでしようか。

それとも、事前に制定し、町民を守ることが大切だと考へているのでしょうか。

質問



本町では、住民生活や基幹産業の酪農・農作物のエゾシカによる被害拡大を抑えるために、有害駆除の担当手である狩猟者を確保し、獣友会の支援を推進する方針があります。

昨年・今年と、狩猟者への頭数割り当てがあつたと聞きましたが、今後も同様に行いますか。

狩猟者への頭数割り当ては、駆除頭数の適正管理の観点から、今後も実施してまいります。

また、鹿肉料理のポジションを変え、食文化として改めて広めていく必要があります。鹿皮や角の加工品の取り組みを広く周知し、エゾシカ利活用の後押しを行ってまいります。

本町には、次産業に欠かせない広大な大地と子どもたちに繋ぐべき豊かな自然があります。

法整備がされていない今だからこそ、環境の維持と町民が危険にさらされることがあります。

支援学校生のペツルフード用の器の出品もあり、ま

た、子どもたちは、鹿皮や角を使いキーホルダーづくりに喜んで参加しました。当町の「エゾ鹿肉を食肉用として有効活用の推進」の方針に適合した取り組みでした。

質問 エゾシカの利活用促進を

答弁 利活用の取り組みを周知し後押しを行います

まつの みやこ 松野 美哉子 議員

町長答弁

町長答弁

狩猟者への頭数割り当ては、駆除頭数の適正管理の観点から、今後も実施してまいります。

また、鹿肉料理のポジションを変え、食文化として改めて広めていく必要があります。鹿皮や角の加工品の取り組みを広く周知し、エゾシカ利活用の後押しを行ってまいります。